

平成 29 年 3 月 6 日
住 民 課 環 境 係

平成 28 年度ヤンバルトサカヤスデ調査について

調査場所 東京都八丈町 37 か所（第 1 表および第 1 図参照）

調査月日 第 1 回目：2016 年 9 月 13 日～15 日
第 2 回目：2016 年 10 月 11 日～13 日
第 3 回目：2016 年 11 月 15 日～17 日
第 4 回目：2016 年 12 月 20 日～22 日
第 5 回目：2017 年 1 月 24 日～26 日

調査目的

ヤンバルトサカヤスデの大量発生防止に向けて、島内生息個体数および群遊状況の調査を行った。

調査方法

生息密度調査：島内 37 か所の生息場所（腐葉土内）（第 1 図）におけるヤンバルトサカヤスデの発生状況および生息密度を調査した。

群遊状況の調査：島内 37 か所と本年度 9 月の段階で群遊の情報が寄せられた 1 か所（中之郷地区中里）の昼間の集合状況および夜間の徘徊状況を調査した。一昨年群遊が認められた 3 か所で昼間の集合状況を調査した。また島内 3 か所で発生程度の聞き取り調査を行った。

調査結果

●発生概況

今年度は 9 月の調査で夜間の徘徊が観察された。10 月、11 月と生息および徘徊、集合か所が増加し、12 月にピークに達し、1 月には発生はほぼ終息した。坂下地区西側の町道（薬剤散布）へのヤンバルトサカヤスデの流入は 11 月から認められた。地域では大賀郷地区、檜立地区での発生量が多かった。昨年と比較して発生が増加したが一昨年のような大発生にはならなかった。

●月別発生状況（第 2 図、第 3 図）

9 月調査時には腐葉土内での生息および発生が認められた観察地点は 7 ヶ所（19%）であった。夜間の徘徊は大越園地休憩舎周辺 1 か所（3%）で認められた。腐葉土内で確認され

た個体の 99.5%が亜成体で残りは成体であった。定点調査地点以外の「地熱館」、「みはらしの湯」、「末吉出張所」での聞き取り調査では、発生および侵入は確認されなかった。

10月調査時には腐葉土内での生息および発生が認められた観察地点は12ヶ所(32%)であった。夜間の徘徊は大賀郷地区で2か所、榎立地区1か所、計3か所(8%)で認められた。また大越園地休憩舎周辺および大坂トンネルの展望台周辺では昼間に建物及びコンクリート壁にヤスデが認められたが少数であった。腐葉土内で確認された個体の84%が成体で残りは亜成体であった。「地熱館」、「みはらしの湯」、「末吉出張所」においては発生および侵入は確認されなかった。

11月調査時には腐葉土内での生息および発生が認められた観察地点は24ヶ所(65%)であった。夜間の徘徊は三根地区で1か所、大賀郷地区で5か所、榎立地区で3か所、中之郷地区で1か所、末吉地区で3か所、計13か所(35%)で認められた。また大坂トンネルの展望台周辺、榎立運動場周辺、ザ・BOON 周辺、名古屋の展望台牛舎壁面周辺および角尻川の橋周辺では昼間に建物及びコンクリート壁に集合が認められた。腐葉土内で確認された個体の99.6%は成体で残りは亜成体であった。「地熱館」、「みはらしの湯」「末吉出張所」において発生および侵入が確認された。

12月調査時には腐葉土内での生息および発生が認められた観察地点は24ヶ所(65%)であった。夜間の徘徊は、三根地区で4か所、大賀郷地区で4か所、榎立地区で4か所、中之郷地区で2か所、末吉地区で4か所、計18か所(49%)で認められた。また大坂トンネルの展望台周辺、榎立運動場周辺、ザ・BOON 周辺、地点標15周辺および名古屋の展望台牛舎壁面周辺では昼間に建物及びコンクリート壁に集合が認められた。腐葉土内で確認された個体の100%が成体であった。「みはらしの湯」「末吉出張所」においては発生および侵入が確認されたが「地熱館」では発生および侵入はなかった。

1月調査時は腐葉土内での生息および発生が認められた観察地点は21ヶ所(57%)であった。夜間の徘徊は、為朝神社周辺、ザ・BOON 周辺の2か所(5%)のみで認められた。昼間の建物及びコンクリート壁でのヤスデの集合は認められなかった。腐葉土内で観察された個体の100%が成体であった。「みはらしの湯」「末吉出張所」「地熱館」において発生および侵入はみられなかった。夜間の徘徊状況から見て本年度のヤンバルトサカヤスデの発生はほぼ終息したと思われた。

ヤンバルトサカヤスデの坂下地区西側の町道(薬剤散布)への山麓からの流入は11月から確認され1月には確認されなくなった。中之郷地区中里の生息は9月から12月まで確認され、夜間の徘徊は10月から12月まで、昼間の集合は11月に確認された。一昨年9月に発生が認められた地点(末吉、大賀郷)での発生および大賀郷のしんのうやし園における生息が認められた。

●地域別発生状況(第2図、第3図)

腐葉土内生息確認か所は10月では坂上地区が坂下地区を上回ったが、その後坂下地区が増加し大きな差は見られなくなった。夜間徘徊確認か所率は11月以降坂上地区が坂下地区

をやや上回っていた。

●調査個体の令構成（第5図）

9月の段階でほとんどが亜成体で、10月以降では成体が主となった。一昨年、昨年と比較して令の進み具合が早かった。

考察

●発生要因

今年度八丈島は気温が高く推移しており、降水量も平年より多かったことからヤンバルトサカヤスデの増殖に好適な条件であったと推測される（第6図、第7図）。

今年度、規模は小さいもののヤンバルトサカヤスデの昼間の集合が認められ、夜間の徘徊も広く認められた。また昨年縮小したヤンバルトサカヤスデの分布が回復してきており（第4図）、来年度はさらに発生量が増加する事が見込まれる。8月下旬から9月上旬に幼虫および亜成体の群遊が認められる場合は一昨年のような大発生の可能性もある。引き続き人家の近くの落ち葉など発生源になる環境をなくすことに加え、8月下旬からの幼虫および亜成体の群遊の有無に注意を払う必要がある。

●発生の地域差

10月の調査では坂上地区の腐葉土内に生息が確認された調査地点の率は、坂下地区を上回っていた。この時点では坂上地区の生息地の分布拡大が先行していたと考えられる。しかしその後坂下地区の生息地の分布も急速に拡大したため11月以降はその差はわずかとなった（第2図）。夜間の徘徊が確認された調査地点の率の差は坂上地区と坂下地区のヤンバルトサカヤスデの生息密度の違いを反映していると思われる（第3図）。

今後の方向

●発生源対策

坂下地区西側の町道では昨年度は発生が認められなかったが、今年度は発生が認められた。来年度発生量が増加する可能性が高いことから、坂下地区西側の町道での発生源対策は引き続き継続していく。

また早期の幼虫、亜成体による群遊が認められた場合は、群遊個体の駆除、近隣地域の落ち葉の除去および雑草の下刈りなどを住民の協力を得て実施していく。

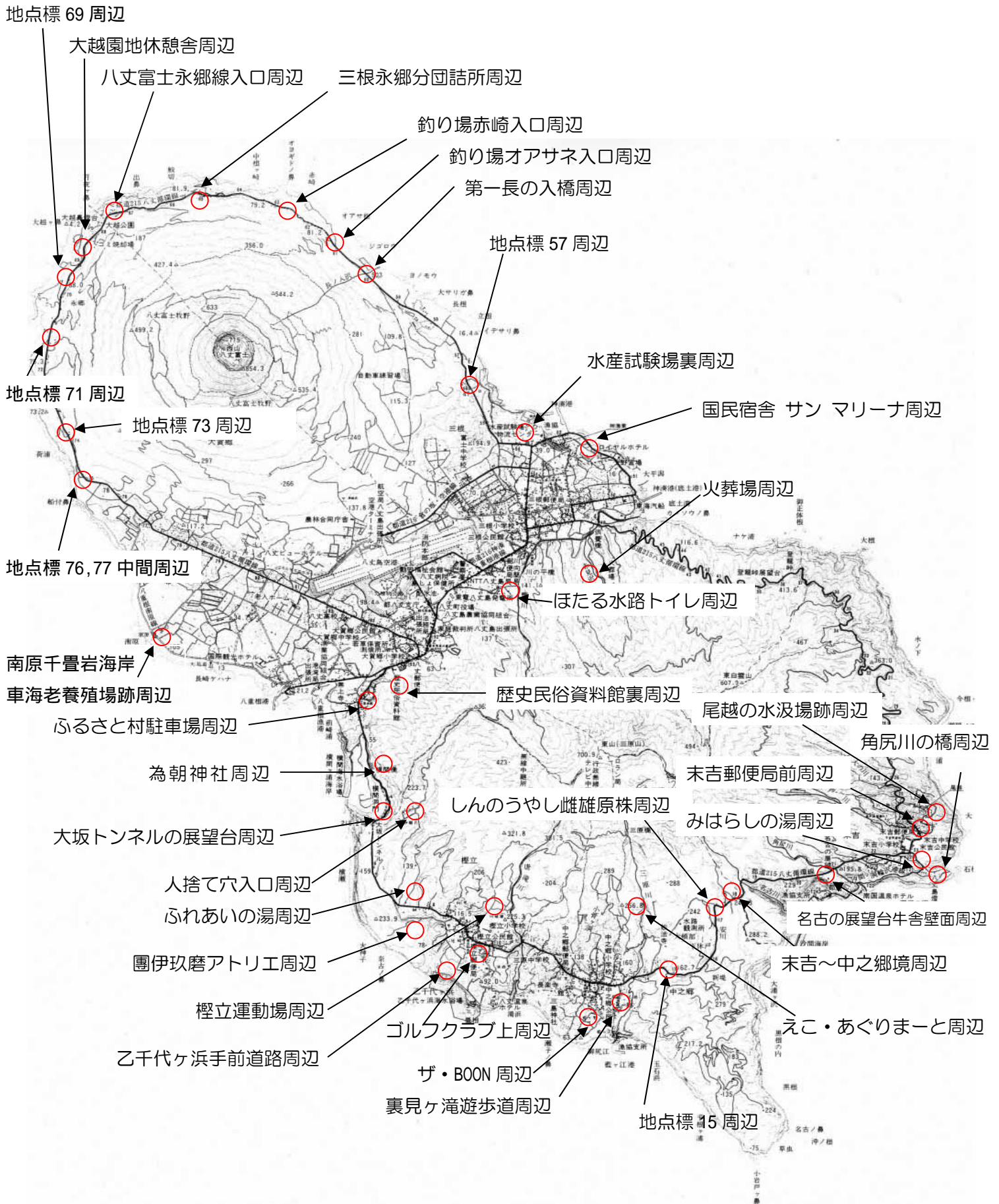
●調査時期および方法

来年度は調査を9月、11月、1月の3回とし、今年度と同様の時期から調査を始める。群遊状況の早期の把握のために夜間調査は最初から実施する。

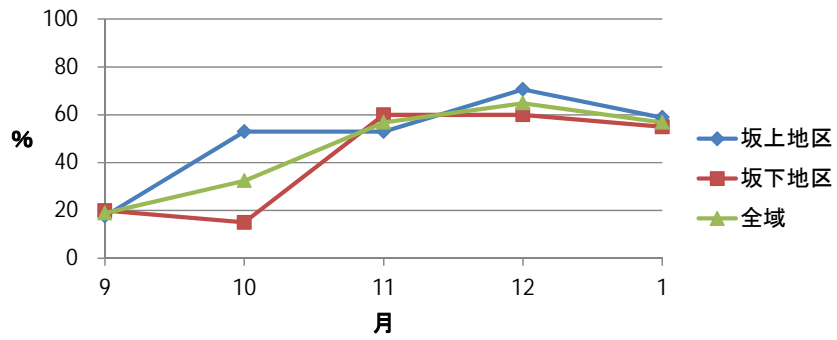
第1表 ヤンバルトサカヤスデ発生状況調査地点一覧

地点名	
1	尾越の水汲場跡周辺
2	末吉郵便局前(地点標23付近)周辺
3	みはらしの湯周辺
4	角尻川の橋(地点標122付近)周辺
5	名古屋の展望台牛舎壁面(地点標21付近)周辺
6	末吉～中之郷境(地点標19付近)周辺
7	しんのうやし雌雄原株周辺
8	地表点15付近周辺
9	えこ・あぐりまーと周辺
10	裏見ヶ滝遊歩道周辺
11	ザ・BOON周辺
12	ゴルフクラブ上周辺
13	乙千代ヶ浜手前道路周辺
14	樫立運動場周辺
15	團伊玖磨アトリエ周辺
16	ふれあいの湯周辺
17	人捨て穴入り口周辺
18	大坂トンネルの展望台(地表点4付近)周辺
19	為朝神社(地表点2付近)周辺
20	ふるさと村駐車場周辺
21	歴史民俗資料館裏周辺
22	ほたる水路トイレ周辺
23	火葬場周辺
24	国民宿舎 サン マリーナ周辺
25	水産試験場裏周辺
26	地点標57周辺
27	第一長の入橋(地点標60付近)周辺
28	釣り場オアサネ入口(地点標61付近)周辺
29	釣り場赤崎入口(地点標63付近)周辺
30	三根永郷分団詰所(地点標66, 67中間付近)周辺
31	八丈富士永郷線入口(地点標67付近)周辺
32	大越園地休憩舎周辺
33	地点標69周辺
34	地点標71周辺
35	地点標73周辺
36	地点標76, 77中間周辺
37	南原千畳岩海岸 車海老養殖場跡周辺

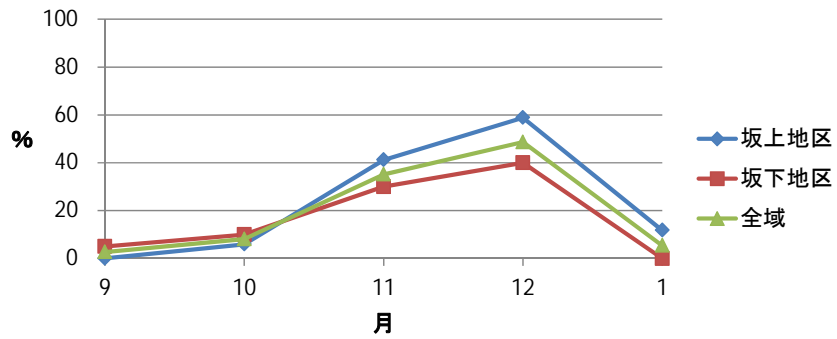
第1図 ヤンバルトサカヤスデ発生状況調査地点



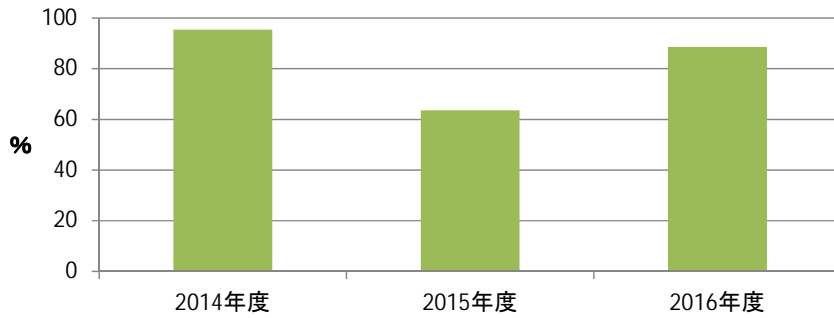
第2図 ヤンバルトサカヤスデ腐葉土内生息確認か所率



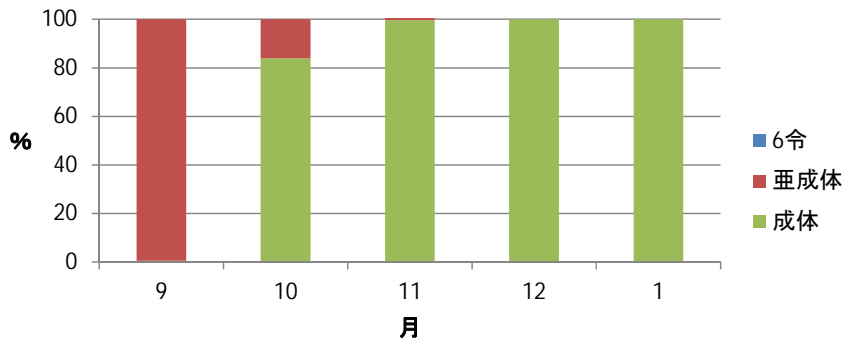
第3図 ヤンバルトサカヤスデ夜間徘徊確認か所率



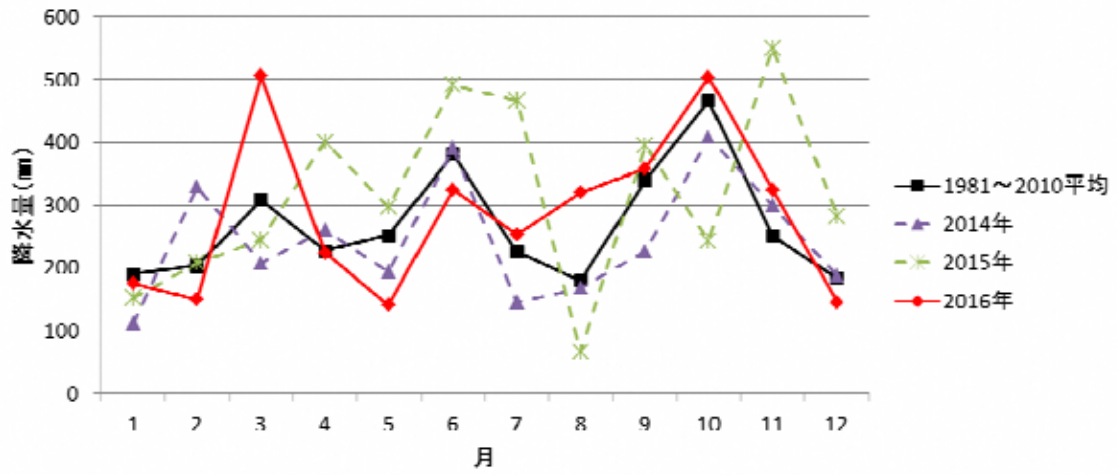
第4図 生息および発生が認められた調査か所率
(定点+7か所中)



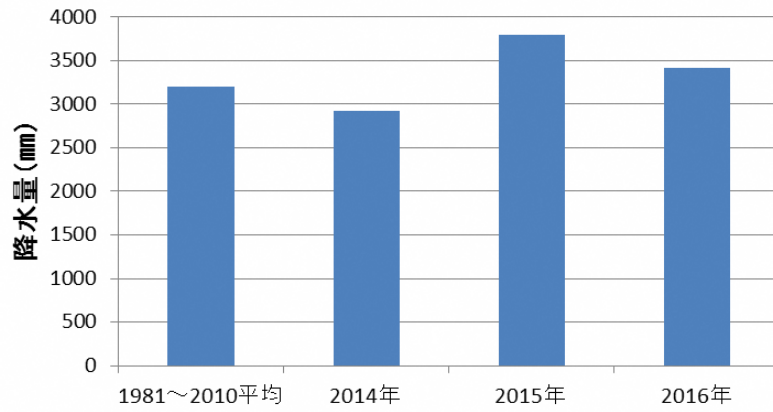
第5図 調査個体の月別令構成



第6図 八丈町月別降水量(気象庁のHPより)



第7図 八丈町の年間降水量(気象庁のHPより)



第8図 八丈町月別平均気温(気象庁のHPより)

